

奈良国立文化財研究所編集

『平城京木簡一―長屋王家木簡一』

現在でも鮮明な記憶のある長屋王家木簡の出土は一九八八年のことである。平城京左京三条二坊一・二・七・八坪を占める邸宅内で、八坪の東南隅に掘られた溝状の土坑から三五〇〇〇点をこえる大量の木簡が出土したのであった。これまで概報の形で報告され、相当の研究が蓄積されてきているが、今回の正式報告の第一冊が出版された。

今回の『平城京木簡一』は王邸内のいわゆる木簡溝から出土した木簡に、七五年・八〇年の発掘調査で、王邸の南側の「平城京左京三条二坊宮跡庭園」地域から出土した木簡を加えて、総計一六八七点についての原寸大写真による報告である。印刷は高精細印刷により、赤外線テレビカメラの画像も多く取り入れられている。

B4判 本文一五〇ページ

別冊「解説」付（A5判 三三六ページ）

定価 二九、八七〇円

発売 吉川弘文館